

医療的ケア部分再開

3人体制できようから

取立鳥
学護立
校養学

鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市江津）で、看護師6人全員が一斉に辞職し、医療的ケアが必要な児童・生徒9人が通学できなくなっている問題で、同校は11日、県立中央病院などから看護師の派遣を受けて1日3人体制でケアを再開する。県教委によると、当面は専用ルームでのケアしかできない、9人全員への対応は難しい状況という。県教委によると、同病院からはローテーションで2人ずつ、県看護協会と県立白兔養護学校（同市伏野）からは1日おきに各1人の看護師が派遣され、専用ルームで医療的ケアを実施する。頻繁なケアが必要な子どもには看護師が教室を回って対応しなければならぬが、3人体制ではできないという。同校に在籍する医療的ケアが必要な児童・生徒は33人。本来は看護師6～8人の勤務が必要のため、県教委は同校に勤務できる看護師を募集するほか、保護者が付き添って通学している子どもについて、引き続き協力を依頼する。看護師の一時派遣は夏休み前の7月22日までを予定。県教委特別支援教育課は「2学期までに（看護師を）学校で雇用する態勢を整えたい」とし、同校は「1日も早く子どもたちが安心して登校できるよう努めていきたい」としている。

2015年6月11日 日本海新聞